

☒ **カフェーの女** (七巻) (一九三〇米)

帝キネ 現代映畫

原作並脚色者

監督者

撮影者

主演者

紹介

川口松太郎
松本英一
二宮義一
香椎園子
松本泰輔
第三百七十一號

ムルナウの「都會の女」を御覽になつた方は、一目これはそのひどい模寫であることに氣付かれるであらう。チャールズ・フーレルが松本泰輔に、メリ・ダンカンが香椎園子に、市俄古が大阪に、田園が海村に、小夢が綾に、汽車が汽船に各々移し換えられたもので、凡そその組立のピンからキリまで委くが「都會の女」の模直してあつて、何處を見ても獨創性は全然見當らない。ムルナウに對する冒瀆も甚しい映畫。川口松太郎は恥すべきである。松竹樂劇部出身香椎園子は靜の美は認めるが、動くこそ劇の美が碎ける。藝の未完成は認めるさしても劇

並びの悪さと、化粧法の不要量がその原因である。松本泰輔の演技は此映畫での唯一の收穫。

興行價値——宣傳で相當客は呼べやう。 (八月十五日 常盤座)